

【第3号議案】

平成23年度事業計画

自 平成23年4月1日

至 平成24年3月31日

1 はじめに

金谷地区の芸術文化を振興し、金谷美術館の使命、地域文化のシンボルとしての趣旨を踏まえ、創造性にとみ、より柔軟な基本的な考え方をもとに、美術館の施設の機能と地域の自然環境、地域文化、地域の人材を最大限に生かしながら効率的、効果的な運営を行い、平成23年度事業を着実に実行することとする

また、金谷美術館の最大の理念である「美しいもの大切なものを、みんなで伝えのこし生かしていく美術館」の実現するために、この理念を基本に平成23年度事業を前広に展開して行くこととする。

1 基本方針

当法人の平成22年度の収支計算書から見ると、事業活動収支差額は1,000万円強のマイナスである。この様な経営環境における事業計画の出来るだけ財政負担の少ない展覧事業を効率的に取捨選択し、限られた予算の中で入館者数の増加につながる特別展等を企画する事が喫緊の課題である。

このような現状を踏まえ、冷静にこの現状を分析し、金谷美術館が未来永劫、地域のまちづくりの核として存続するためには、第一に実現することは、最低でも必要とされる年間美術館の直接的な運営管理費2,000万円強（減価償却費を含まない。）を入館料でまかなうことができるように、入館者を増やすことにある。

この課題の克服の具体的な方策を講じることが、当美術館の喫緊の課題であり、存立の基盤の強化を確立することである。このような現状を脱却し、健全な運営管理の実現を図るには、非常に厳しいものがあるが、既に、金谷美術館丸は会館し、船出した。美術館事業は継続して展覧事業を着実に推進することに意義があり、この船出にあと戻りは許されない。そこで、金谷美術館が、今後、健全な財務状況のもとで事業運営を実現するため、次のような事業展開を図っていくことが求められる。

第一に、金谷美術館の存在を、多くの人に知ってもらうために、千葉県富津市金谷をどのようにして知らしめるかが重要である。これを実現するためには、金谷地区だけで人の力だけでなく、多くの人ボランティア活動を主体にした広告宣伝活動、ピーア一活動に支援や協力を求め、これを実現することが重用である。

第二に、広告宣伝の媒体として新聞、テレビ、HP等の既存の広告媒体を活用することはもとより、地域住民と富津市民の協力と支援を得ることが肝要である。一方、美術館の展示品の充実と工夫が必要であり、リーピーターを増加する対策が講じることである。このための方策として多くの来館者の意見やニーズを積極的、迅速に取り入れ、これらを実現するための体制づくりが美術館側に求められる。

第三に、一般財団法人から公益財団法人への移行認定を早期に実現するため、移行認定申請を早期に行い、公益財団法人としてより公益性の高い美術館になることを関係者に知ってもらい、より多くの関係者の助言と指導を得ながら、健全な管理運営に努めなければならないと考えている。

今後これらのことを実現するため、平成23年度事業として次の事業を展開することとする。

平成23年度の金谷美術館の主な事業計画

(1) 特別企画展等の展覧及び普及のための事業計画（定款第4条第1項）

平成23年度の展覧事業として、次の特別展を実施する。多様な美術展を通じ、美術工芸品を鑑賞することによって優れた美術文化の中で、鋭敏な感性に富み、行動力、実行力の有る若い力を育てるために、地域の街づくり、地域文化と地域起業家を育て、地域産業を振興し、元気ある街づくりの実現に向けて今年度の特別企画展を計画している。

(2) 人材育成事業（定款第4条第2項）

人材育成事業（定款第4条第2項）に係わる平成23年度の主な事業は、①「子供工作教室」、②「鋸山写生教室」、③「羽子板と上総凧」のイベントを計画している。

人材育成事業は金谷美術館の大きな目的の一つである。今年度も限られた予算の範囲内で廉価な素材や教材を発掘し、これらを有効に活用し、人材育成事業を行うことにしている。

(3) 街づくりのための事業（定款4条第5項）

街づくりのための事業（定款4条第5項）に係わる平成23年度の主な事業は、①「ひまわりで金谷を埋める」、②「金谷アートウォーク」、③「クリスマス」、④「ひなまつり」、⑤芸大生、アーティストとの連携による「石と芸術のまちづくり」等の催行事を計画している。

街づくりのための事業は、景観や史跡や産物だけでは成り立たない。人が集まり、話題があり、知恵が生まれ、活動と躍動のエネルギーが地域の活性化を創生する。多くの人が集まる集客施設は、新たな地域文化を創生し、地域を活性化する。その最大の要因は多くの人が集まり、多彩な催行事が出来る場所や施設があることである。金谷美術館はステージを提供する事は勿論、多様なイベント実施するためのマンパワーは、美術館の学芸員や職員そして多くのボランティアの方々、また、美大生や芸術家そして地域の各団体との連携を図りながら、これらの人達や団体を結集することにより、「平成23年度の1丁目1番地」の地域活性化事業として推進し、地域社会に貢献、寄与することを計画している。

(4) その他の事業（定款第4条第6項）

その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第4条第6項）に係わる平成23年度の主な事業は、①「トークイベント」、②「コンサート」を実施することを計画している。各種の事業のなかでも美術館本来の事業ではないと思われる催行事であっても、美術館の意義や存在を高める催行事は多くある。これらの事業は、金谷美術館が美術工芸品の展示事業と、その他の事業に係るイベントとのコラボレーションは、相乗効果を期待することが出来る試金石としての事業である。これらの事業も美術館の財政負担は重い、価値のあるイベントである。

1 美術工芸品の展観普及事業(定款第4条第1項)

事業目的等		展示予定期間	事業概要
趣旨・目的	展観事業の名称等		
<p>(1) 地域の美術館として限られた展示面積の中で、良質な作品を展示することにより地域住民に芸術的な素養と豊かな感性を醸成し、うるおいのある生活を営むことができるよう地域社会等に寄与することを目的とした展観事業である。</p> <p>(2) 将来性のある地域の小・中学生の情操教育に寄与するとともに健全な芸術的感性を養育することを目的とした展観事業である。</p>	<p>1 特別展の名称 「愛の表情」 ～浮世絵美人画から清方・松園・深水まで～ 入館予定者数 (1400人)</p> <p>別館の展示 鈴木南汀の作品を展示</p>	2011・4・2～6・27	<p>主な展示作品等 女性を主題とした美人画を中心に展示 前期・後期に分け展示 浮世絵美人画 鏑木清方・谷文晁・伊東深水・菱川師宣・葛飾北斎など。</p> <p>金谷の名主、鈴木家の当主、鈴木南汀の下絵を中心に展示。その他、お花見セット、漆器などの展示。</p>
	<p>2 特別展の名称 久住三郎 Kind Of Blue 〈光〉 入館予定者数 (6000人)</p> <p>別館の展示 鈴木南汀の作品を展示</p>	2011・7・2～9・26	<p>主な展示作品等 日本美術院展・山種美術館賞展はじめ国内外で活躍した久住三郎の作品で構成。氏がニューヨークを舞台に活動した時代と帰国後の作品を展示。 名主、鈴木家の当主、鈴木南汀の下絵を中心に展示。その他、お花見セット、漆器などの展示。</p>
	<p>3 特別展の名称 日本画っておもしろい ～仏・禅・俳～ 入館予定者数 (500人)</p> <p>別館の展示 未定</p>	2011・9・30～12・5	<p>主な展示作品等 本展示では敬遠されがちな俳画・禅画・仏画 俳画等による新たな一面・新たな発見と楽しく観覧</p> <p>展示作品未定</p>
	<p>4 特別展の名称 平井烟崙 別館の展示</p>	2011・12・10～2012・3・12	<p>主な展示作品等 渡邊崋山の系譜に繋がる白井烟崙の作品を中心に山水画等を展示</p> <p>展示作品未定</p>

2 人材育成事業(定款第4条第2項)

事業目的等		予定実施期間	事業概要
趣旨・目的	事業の名称等		
<p>(1) 美術館の大きな目的の一つに地域の人材育成がある。限られた予算の範囲内で廉価な素材や教材を発掘し、これらを有効に活用し、人材育成事業を行うことにしている。</p> <p>(2) 地域の人材教育を限られた資金のなかで、教育の専門家、教育者等の人選の創意工夫に努め、美術館を主要なステージにした教育を展開する。</p> <p>(3) 地域の産物や資源を生かした教材を発掘し、地域の環境と共生し、育むことが大切との観点から教材の選択にも知恵に絞って特色のある人材育成に努めることにしている。</p>	<p>1 子供工作教室</p> <p>参加予定者数 20人</p>	2011・7・16	親子で夏物工作
	<p>2 鋸山写生教室</p> <p>参加予定者数 10人</p>	2011・10	鋸山の紅葉を撮影
	<p>3 羽子板と上総凧</p> <p>参加予定者数 10人</p>	2012・1・2 ～ 1・31	1ヶ月間巨大羽子板と上総凧の展示 上総凧の販売

3 街づくりのための事業(定款4条第5項)

<p>(1) 街づくりは、景観や史跡や産物だけでは成り立たない。人が集まり、話題があり、知恵が生まれ、活動と躍動のエネルギーが地域の活性化を創生。</p> <p>(2) 人々は自分の活躍やパフォーマンスが実現出来る所に集まって来る。多くの人が集まる集客施設は、新たな地域文化を創生し、地域を活性化する。</p> <p>(3) 地域を活性化する最大の要因は多くの人が集まり、多彩な催行事が出来る場所や施設があることである。また、この催</p>	<p>1 ひまわりで金谷を埋める</p> <p>参加予定者数 50人</p>	2011・7・2 ～ 9・26	金谷の街をプランターで育てたひまわりで飾る
	<p>2 金谷アートウォーク</p> <p>参加予定者数 500人</p>	2011・7・17	①金谷のまちの隠れた見どころを巡る全長6kmのウォーキング。 ②芸術家と協力して随所にアート作品を配置。
	<p>3 休眠店舗再生</p>	2011・8～	①金谷町内の休眠店舗に芸大生、アーティストを招聘 ②空き店舗をアトリエやギャラリーとして再利用 ③KANAYA、地域観光商工業者と連携

<p>行事を企画し、実行するマンパワーが必要である。金谷美術館はステージを提供する事は勿論、美術館の学芸員や職員がイベントの企画、実施し、美術館が財政負担をし、地域に貢献するものとする。</p>	<p>4 クリスマス</p> <p>参加予定者数 150人</p>	<p>2011・12・15 ～ 2011・12・25</p>	<p>①クリスマスイブまでの数日間カッ プルに入館プレゼント ②集客・来館者誘因のためのイベント</p>
	<p>5 ひなまつり</p> <p>参加予定者数 140人</p>	<p>2011・2・15 ～ 3・3</p>	<p>①ひな人形を2週間展示 ②集客・来館者誘因のためのイベント</p>

4 その他の事業（定款第4条第6項）

<p>(1) 各種の事業のなかでも美術館本来の事業ではないと思われる催行事であっても、美術館の意義や存在を高める催行事は多くある。</p> <p>(2) 美術館が主体となって、創造を高め、知恵を出し、汗をかき、責任を持って催行事を行えば、責任と所在、財政負担が明確である限り、人々は、安心して集まり、催行事（イベント）に参加してくれる。</p> <p>(3) このようなイベントは、地域の人達の賑わい、喜び、達成感、共感等を参加者が共有できる。</p> <p>(4) 金谷美術館のコンセプトである「美しいもの大切なものを、みんなで伝えのこし生かしていく美術館」を前広に展開する事業が、その他の事業の催行事を含めた各種のイベントである。</p>	<p>1 トークイベント</p> <p>参加予定者数 50人</p>	<p>2011・7・16</p>	<p>美術工芸品の展観事業と音楽の関連性について</p> <p>講師 専修大学教授</p>
	<p>2 コンサート</p> <p>参加予定者数 100人</p>	<p>2011・9・14</p>	<p>展覧会のイメージとリンクした太鼓の演奏</p>

3 金谷美術館のその他の主な事業計画

次に掲げる課題等は金谷美術館が今後、展観事業を円滑に推進して行くためには、乗り越えなければならないハードルばかりで、しかも重要な事業である。しかし、これらの事業は、長期的な観点から、計画をたて、多く人の知恵と支援と協力を得ながら推進して行く必要がある。また、これらの問題や課題は多くの展観事業者の共通した課題でもある。先達の力と知恵の協力と適切な助言と指導を得ながら真摯に取り組んで参りたい。

- (1) 入館者の倍増計画と実現
- (2) 寄付金事業の推進
- (3) 会員獲得のための事業の推進
- (4) 公益財団法人金谷美術館の移行認定の促進
- (5) 金谷美術館の広告宣伝活動
 - ① 関係行政機関及び団体・企業に対するご案内
 - ② 富津市民にたいする呼びかけ
 - ③ 千葉県民や対岸の横浜・横須賀に対する PR 活動
- (6) 財基盤の確立のための支援と協力